

出雲市新体育館だより



〔鳥瞰イメージ（南側上空から）〕

「出雲市新体育館だより」の発行にあたって

市民の皆様には、日頃から出雲市新体育館整備運営事業にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、新体育館については、昨年3月「出雲市新体育館整備運営事業」の落札者を決定し、6月には鹿島建設株式会社中国支店を代表企業とする出雲アリーナパートナーズ株式会社と契約を締結しました。

新体育館は、市民が気軽にスポーツ、健康づくりができ、市大会等が開催できる市民のスポーツ活動拠点として整備するもので、令和6年(2024)4月の開館に向け、現在、実施設計や敷地の造成に取り組んでいるところです。

この新体育館が「市民に愛され、親しまれ、利用しやすい体育館」となるよう、事業概要や進捗状況について市民の皆様にごできるだけ分かりやすくお伝えしたいとの思いから、このたび「出雲市新体育館だより」を発行することとしました。今後もこのたよりを発行し、市民の皆様にご新体育館を身近に感じていただければと考えています。

市としましても、令和6年4月の開館に向け全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

出雲市長 飯塚 俊之

★ なぜ新体育館を整備することになったの？

市内体育館には次のような課題等があることから、この先、50年・60年先を見据え総合的に判断した結果、市民のスポーツ活動の拠点となる新体育館を整備することとしました。

- 2市5町が合併し17万都市となったことにより、各競技団体の規模が大きくなり、大会運営等に支障をきたしており、17万都市にふさわしい規模の拠点となる体育館が無いこと。
- 既存の市立体育館には、大会等の運営に必要となる、選手控室、大会役員室のほか、多目的室、キッズルーム、授乳室、多目的トイレが無いなど、多様化する市民ニーズに対応するうえで機能面に課題があること。
- 市内には県立浜山体育館（カミアリーナ）があるが、全国大会、中国大会などの大規模大会のほか、プロスポーツなど、特に土日祝日は空きがない状態であり、市の拠点体育館としての役割を担うことは困難であること。
- 「出雲市公共施設のあり方指針」において、老朽化の著しい、出雲体育館、平田体育館、斐川第2体育館について、廃止の方針となったこと。
- 今後、市内に約800ある公共施設を全て維持管理していくことは困難であり、体育施設においても効率的・効果的な施設運営が求められていること。

■新体育館整備に関するこれまでの経過

- 平成27年 3月 「出雲市公共施設のあり方指針」策定
※出雲体育館・平田体育館・斐川第2体育館の「廃止に向けた取組を行う」旨を明記
- 平成28年 2月 施政方針において「新体育館の整備のあり方についても、検討を進めます」と表明
- 5月 「出雲市スポーツ推進計画」を策定 ※新体育館建設を明記
- 平成29年 3月 新たな出雲の國づくり計画「出雲未来図」後期基本計画策定
※新体育館建設を明記
- 平成30年 6月 建設地を「島根県立大学出雲キャンパス東側」に決定
- 10月 出雲市スポーツ振興審議会に「新体育館建設基本計画」の策定について諮問
- 令和元年 8月 出雲市スポーツ振興審議会から「新体育館建設基本計画」を答申
- 9月 「新体育館建設基本計画」策定
- 11月 事業手法についてPFI（BTO）手法で行うことを決定
- 令和2年 6月 新体育館事業用地を取得
- 10月 「新体育館整備運営事業」入札公告
- 令和3年 2月 敷地造成工事着手
- 3月 新体育館整備運営事業の落札者決定
- 6月 事業契約の締結

★ 新体育館の事業手法は？

新体育館の事業手法は、出雲市では初めてPFI（BTO）手法で行うこととしました。

■ “PFI（BTO）手法” とは？

新体育館のような大型施設を整備する場合、設計・建設・維持管理・運営といった工程があります。

通常、市が行う事業では、これら設計・建設・維持管理・運営を、それぞれ別々に入札等を行い発注します（従来手法・分離発注）。

これに対し、PFI（BTO）手法では、これらを一括発注します。

このメリットとしては、一括発注することで、設計段階から建設・維持管理・運営を見据えた民間事業者のノウハウや創意工夫が期待できることにより、質の高いサービスが提供されることや、コスト削減効果（VFM）が期待できることなどがあります。

今回の新体育館の場合、VFMが7.42%、約4億3千万円のコスト削減効果がありました。

※PFI（Private-Finance-Initiative）

- ▶ 民間事業者の資金・ノウハウを活用し、公共施設の整備等を行う公共事業の手法です。

※BTO（Build-Transfer-Operate）

- ▶ PFI手法の一つであり、民間事業者が施設を建設し、所有権を市に移転した後、維持管理・運営を行う手法です。

※VFM（Value-For-Money）

- ▶ 従来手法に比べ、PFI手法の方が総事業費をどれだけ削減できるかを示す割合です。



〔西側前面道路から〕

★ 新体育館の整備運営事業者は誰ですか？

新体育館の整備運営事業を行うのは「出雲アリーナパートナーズ株式会社（出雲市塩冶神前二丁目8番16号）」です。

■ “出雲アリーナパートナーズ株式会社”とは？

新体育館の事業手法がPFI（BOT）手法のため、提案事業者は設計・建設・維持管理・運営の各企業によるグループを組成し入札に参加します。

落札者に決定したグループ企業は“新体育館整備運営事業を行うことだけを目的”とした株式会社を新たに設立します。

出雲アリーナパートナーズ株式会社は、次のグループ企業等により新たに設立された会社であり、市とこの会社が事業契約を締結し事業を実施します。

【落札者】

| 種別 | 企業名 | 業務分野 |
|------|------------------|------|
| 代表企業 | 鹿島建設株式会社中国支店 | 建設 |
| 構成員 | 美津濃株式会社 | 運営 |
| // | 株式会社梓設計関西支社 | 設計 |
| // | 今岡工業株式会社 | 建設 |
| // | 合人社エンジニアリング株式会社 | 建設 |
| // | 株式会社合人社計画研究所 | 維持管理 |
| // | 株式会社コンベンションリンケージ | 運営 |
| 協力企業 | 有限会社ナック建築事務所 | 設計 |

★ 新体育館の建設地はどこですか？

出雲市西林木町にある「島根県立大学出雲キャンパス」東隣です。



★ どのような体育館を建てるのですか？

出雲アリーナパートナーズ株式会社から提案のあった新体育館の施設概要は次のとおりです。但し、あくまで提案段階のものであるため、基本・実施設計の中で変更となる可能性があります。

(延床面積) 9, 163. 90㎡〔建築面積: 7, 386. 47㎡〕

(構造等) 鉄骨造 地上3階建〔高さ: 約17m〕

(その他) 緑地・憩いの場 2, 043. 00㎡

駐車場 10, 392. 00㎡ (約420台)

駐輪場 226. 00㎡ (約130台)

(諸室概要)

| 室名 | 面積 | 室名 | 面積 |
|------------------|-------------------------|------------|-------------------------|
| メインアリーナ | 2,035.50 m ² | ホワイエ | 139.60 m ² |
| // 観客席 (約1,000席) | 599.80 m ² | 廊下 | 1,067.40 m ² |
| サブアリーナ | 1,253.10 m ² | 展望ラウンジ | 84.50 m ² |
| // 観覧スペース | 61.20 m ² | 展望デッキ (屋外) | 95.80 m ² |
| 多目的室 | 296.80 m ² | 器具庫 | 388.80 m ² |
| 会議室 | 201.40 m ² | 倉庫 | 30.20 m ² |
| 放送室 | 42.10 m ² | 給湯室 | 4.80 m ² |
| 医務室 | 28.90 m ² | 防災備蓄倉庫 | 95.90 m ² |
| 授乳室 | 24.20 m ² | 選挙物品保管庫 | 100.60 m ² |
| キッズルーム | 23.70 m ² | 事務室 | 70.90 m ² |
| ランニングコース | 563.30 m ² | 清掃員控室 | 22.60 m ² |
| 更衣室・ロッカー・シャワー室 | 245.00 m ² | 機械室・電気室 | 974.50 m ² |
| 休憩・物販コーナー | 106.00 m ² | トイレ (一般) | 396.50 m ² |
| エントランスホール・ロビー | 111.10 m ² | // (多目的) | 39.20 m ² |
| 風除室 | 60.50 m ² | (合計) | 9,163.90 m ² |

【 諸室の内観イメージ 】



メインアリーナ



サブアリーナ



多目的室



会議室



エントランスホール



2階展望ラウンジ

★ 新体育館の事業スケジュールはどうなっていますか？

次のとおりです。現在のところ予定どおり順調に進んでいます。

| | | | | | | |
|----------|------|----|---|---------|----|--------|
| ○敷地造成工事 | 令和3年 | 2月 | ～ | 令和4年 | 3月 | (14か月) |
| ○基本・実施設計 | 令和3年 | 7月 | ～ | 令和4年 | 7月 | (13か月) |
| ○建設工事 | 令和4年 | 8月 | ～ | 令和5年12月 | | (16か月) |
| ○開業準備 | 令和6年 | 1月 | ～ | 令和6年 | 3月 | (3か月) |
| ○開館 | 令和6年 | 4月 | | | | |
| ○維持管理・運営 | 令和6年 | 4月 | ～ | 令和21年3月 | | (15年間) |

★ 新体育館の建設地は“今”どうなっているの？

新体育館の建設地では、現在、市が造成工事を行っています。

新体育館の造成工事は、市が仮造成を行い、最終的な仕上げは事業者において建物・敷地を一体的にデザインし行うこととしています。

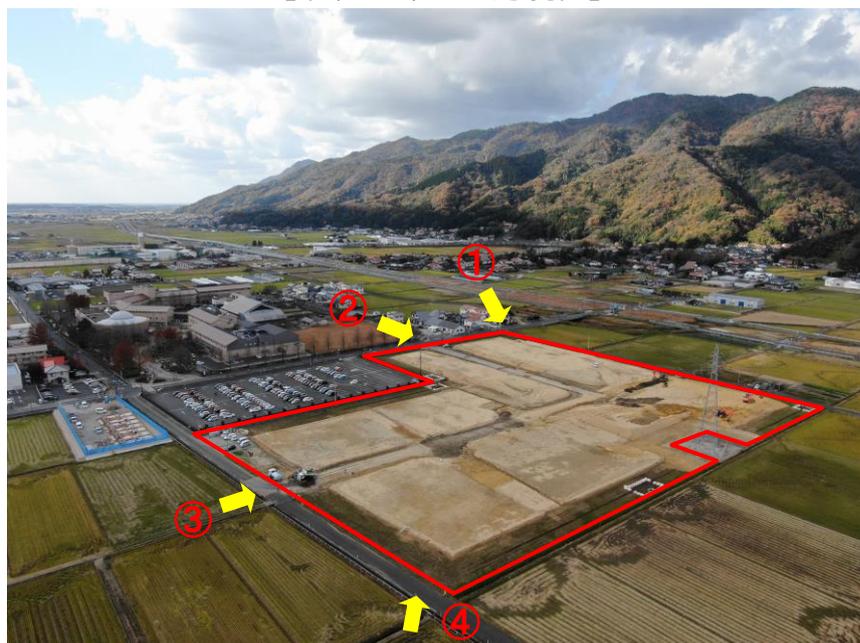
市の造成工事では、搬入する造成土の全体土量を約47,000m³と予定しており、令和3年12月時点で37,000m³（約79%）の搬入が完了しています。

今後は、敷地内に設けたダンプの搬入路部分の造成を行い、令和4年3月には工事を完了する予定です。

【着工前（令和元年8月頃）】



【令和3年11月現在】



※写真中の数字は次ページの写真番号です。

【 造成工事の実施状況（令和3年11月現在） 】



①敷地北西角の状況



②敷地西側のダンプの搬入路です。最終的には、この搬入路も左右と同じ高さまで土を盛ります。



③敷地南側のダンプの搬入路です。ここも左右と同じ高さまで土を盛ります。手前左側にある機械はダンプのタイヤに着いた泥を落とす機械です。



④敷地南東からの遠景

おわりに・・・

新体育館整備運営事業は、令和6年4月の開館に向け予定どおり順調に進んでいます。今後も『出雲市新体育館だより』を発行し、市民の皆様には新体育館の整備状況などを紹介していく予定です。

なお、新体育館についてのご質問などありましたら、文化スポーツ課スポーツ特別事業室までお気軽にお尋ねください。